

授業科目(ナンバリング)	保健医療と福祉 (DC202) (実践的教育科目)			担当教員	韓 榮芝 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本講義における授業のねらいは、①ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解できる、②保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解できる、③保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解できる、④保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解できることである。</p> <p>保健医療領域における、社会福祉士としての業務について体系的に知り、チーム医療の実務に関する知識を獲得できる。また、患者の尊厳を護るための視点を養うこと、精神疾患も含めた患者の療養生活におけるニーズに対して、社会福祉、精神保健福祉の視点から援助するための「知識と技術と職業倫理」について知ることができる。将来、MSW を目指す学生にとっての職業選択に役立てることができる。</p>							①②⑥⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	保健医療領域における制度・政策、倫理、多職種連携、業務指針、在宅医療、終末期ケア、認知症ケア及び災害現場での支援等、社会福祉士としての専門性を発揮できる知識を獲得できる。				定期試験	70%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力	患者の多様性や自己決定の尊重の意味について、療養生活の支援事例を通して理解できる。また、他職種の役割を理解し、多職種連携・協働の方法、形態について理解できる。				作問課題	30%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>予習として事前に指示したテキストの頁を読み、受講後に復習を行う。講義のなかで学修確認のための作問を課し、その内容を紹介し、学生の共有知識とする授業内フィードバックを行う。この作問課題で 30 点の評価を行う。定期試験は筆記試験・持込可、70 点満点で評価する。講義ノートをしてできるだけ作成すること。ノートの内容は、「授業中の話のメモ、ポートフォリオに掲げたパワーポイントの内容、及び自習内容等」を記すこと。</p>							
授業の概要							
<p>福祉実践経験を持つ担当教員が担当し、理論を臨床と結びつけて理解できるよう学修を行う。</p> <p>講義の進め方はテキストを軸として行う。また、MSW 史として昭和の歩み等について臨床経験を交えた講話から学修を行う。授業で用いた資料はポートフォリオのコンテンツに掲載する。講義の中で、ワークカードを用いて行うディスカッションの機会を通じて理解を深める。また、講義内容の講話を学生はノートに記録する。</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、180 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書： 中島裕他 編著 (2022) 『保健医療と福祉』 ミネルヴァ書房</p> <p>教科書： (一社)日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 (2022) 『最新社会福祉士養成講座 保健医療と福祉』 中央法規</p> <p>参考書： 中島さつき (1993) 『医療ソーシャルワーク』 誠信書房</p> <p>指定図書： 児島美都子 (1992) 『医療ソーシャルワーカー論』 ミネルヴァ書房</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

テキストを事前に読み予習を行うこと。復習時は講義内容について調べなおし、ポイントを整理して理解を深めること。紹介した文献を図書館等で読んでおくこと。そのためにも、板書や講義ではノートを取り整理しておくこと。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	<u>保健医療の動向 (1)</u>	保健医療の構成要素、対応課題、生活習慣病の増加等の疾病構造の変化を理解できる。 作問課題①	感染症や生活習慣病等の疾病構造に関する配布資料を復習し理解する。52p～
2	<u>保健医療の動向 (2)</u>	在宅医療のしくみについて理解できる。 作問課題②	予:訪問看護を調べる。 復:在宅医療を体系的にノートにまとめる。62p～
3	<u>保健医療の動向 (3)</u>	依存症対応や虐待防止をはじめとした、保健医療における福祉的課題について理解できる。 作問課題③	予:依存症を調べる。 復:認知症、自殺企図についてまとめる。74p～
4	<u>保健医療に係る政策・制度・サービスの概要 (1)</u>	医療費の自己負担、高額療養費制度、労災保険、特定疾患等の医療保険制度の概要について理解できる。 作問課題④	予:診療報酬を調べる。 復:国民医療費等について統計をまとめる。86p～
5	<u>保健医療に係る政策・制度・サービスの概要 (2)</u>	病床の類型と内容を理解する。ナショナルセンターをはじめ政策医療について体系的に理解できる。 作問課題⑤	予:特定機能病院を調べる。 復:政策医療体系をノートに整理する。95p～
6	<u>保健医療に係る政策・制度・サービスの概要 (3)</u>	保健所の役割、医療計画の内容と策定手順、薬剤耐性対策等について理解できる。 作問課題⑥	予:医療計画を調べる。 復:保健所の法的根拠等をノートにまとめる。87p～
7	<u>保健医療に係る倫理 (1)</u>	医療ソーシャルワーカーの役割の変遷について、患者の権利擁護の視点から理解できる。 作問課題⑦	予:治療の説明責任を調べる。 復:MSW の発祥についてノートにまとめる。34p～
8	<u>保健医療に係る倫理 (2)</u>	インフォームド・コンセント、医療倫理の4原則、高度生殖医療等の倫理的課題について理解できる。倫理綱領と価値について理解できる。 作問課題⑧	予:倫理綱領を読む。 復:行動規範も合わせて理解する。37p～
9	<u>保健医療に係る倫理 (3)</u>	出生前診断、臓器移植、尊厳死の意味を理解し、そのための症例について事例検討して理解できる。作問課題⑨	予:臓器移植を調べる。 復:出生前診断の記事から課題を抽出し整理する。43p
10	<u>保健医療領域における専門職の役割と連携 (1)</u>	保健医療領域における専門職について理解できる。 作問課題⑩	予:医師法、保助看法を読む。 復:チーム医療と他職種専門性を整理する。129p
11	<u>保健医療領域における専門職の役割と連携 (2)</u>	IPW、他職種連携など社会福祉士の役割について理解できる。精神疾患患者への支援事例を通して、病診連携、地域移行連携について理解できる。作問課題⑪	予:患者主体の医療の実現方法を調べる。 復:精神科患者支援をまとめる。141p
12	<u>保健医療領域における専門職の役割と連携 (3)</u>	地域包括ケアシステムの概要を知り、地域医療連携、クリティカルパス、患者主体医療の実現及びパフォーマンスの最適化について理解できる。 作問課題⑫	予:医療連携パスを調べる。 復:ケアシステムにおける役割をまとめる。133p～
13	<u>保健医療領域における支援の実際 (1)</u>	医療ソーシャルワーカーの業務指針の歴史的経緯と役割及び、医療福祉の歴史を辿り、業務の範囲を理解できる。 作問課題⑬	予:MSW 業務指針を読む。 復:行動規範について項目ごとにまとめる。162p～
14	<u>保健医療領域における支援の実際 (2)</u>	入退院時の支援、災害被災者への支援、DMAT の活動におけるチーム支援等について理解できる。 作問課題⑭	予:被災者支援を調べる。 復:支援アプローチを事例で検討する。217p～
15	<u>保健医療領域における支援の実際 (3)</u>	ヘルシンキ宣言、尊厳死、ヒポクラテスの誓い、ナイチンゲール誓詞、電子カルテについて理解できる。 作問課題⑮	予:各専門職の医療哲学を調べる。 復:事例集を読む 36 p、175 p～
16	定期試験		